

書字練習

年 月 日

私はその人を常に先生と呼んでいた。だからここでもただ先生と書くだけで本名は打ち明けない。これは世間を^{はば}憚る遠慮というよりも、その方が私にとって自然だからである。私はその人の記憶を呼び起すごとに、すぐ「先生」といいたくなる。筆を執^とっても心持は同じ事である。よそよそしい頭文字などはとても使う気にならない。 出典：こころ 夏目 漱石（上 先生と私より）